

令和7年度
第3回 和歌山県立たちばな支援学校 学校運営協議会

令和8年2月10日(火) 午前10時～11時30分

出席者：委員6名 傍聴人5名

議 題

- 1 学校評価アンケート結果について
- 2 学校の重点目標にかかる評価について
学校評価シート（評価、学校関係者評価）
- 3 意見交換

協議した内容

1 学校評価アンケート結果について

(教頭より報告)

- ・保護者の回答率が向上し、全体として高評価であった。課題については、各学部や校務分掌で対策を検討し改善につなげていきたい。課題の内容によっては職員会議で全体に周知する。

(校長より)

概ね高評価の結果であり、教職員の働きがいにも繋がると捉えている。また、Forms アンケートは、集計業務が容易で業務改善につながっている。

(協議)

○Forms アンケートについて

保護者は Forms アンケートに慣れてきており、回答率向上につながった。紙面アンケートより意見が書きやすいため、多様な意見が寄せられるようになっている。

○年度途中でアンケートを実施する提案

年度途中でアンケートを行い、変化を把握することも一つの方法である。また、相談窓口的に自由記述の意見を集約できるよう Forms の活用も考えられる。

○学校運営協議会委員の評価について

「学校見学の機会があると回答しやすい」との意見をいただいたため、来年度は見学をしながら教育内容を説明する機会を設定していく。学校行事や学部行事について案内し、学校運営協議会以外の日も来校してもらえるようにする。

○評価結果の捉え方と改善点

高い評価は、現在の取組の方向が妥当であることの裏付けとなる。数値の低い項目も昨年度と比較して改善が見られることから現在の方向性で取組を継続するのがよい。一方、学校運営協議会委員の評価は、保護者と異なる立場での評価であるため、低い評価項目については改善策を検討する必要がある。特に「教職員の態度」については、周知だけでなく研修など具体的な方策を講じていくのがよい。

2 学校の重点目標にかかる評価について

(校長より報告)

- ・学校評価シートの各重点目標について、具体的な取組とその成果について説明した。

(協議)

○取組内容について

多くの取組が順調に進んでおり、さまざまなよい実践が行われていることがよく分かった。

○若手教員の研修について

学校評価アンケートで業務改善が低評価であったため、研修の回数が多いことを懸念する意見があった。学校では校務を適切に分担しながら業務を進めており、初任者は分掌に入らず、運営委員会の時間に研修するなどの工夫をして勤務時間内に設定するようにしている。

○高校からの教育相談等のニーズが少ない点について

今年度より「特別支援教育室」が「特別支援教育“課”」となり、高等学校も支援対象となったことで、より多様な学びの場を選べるようになった。また、教育委員会の方針として教員の交流が位置付けられており、特別支援学校からの交流人事により、高校への支援体制も進んでいる。個別の配慮が必要であるという視点が高等学校にも広がっていくことが期待される。

○地域との交流の重要性について

生徒は、先生や顔なじみの人たちの中では力を発揮できるが、外部の人の前では難しさを感じることもある。自己肯定感が低い生徒もいるため、そうした機会を設定し、成功体験を積めるようにしている。

3 意見交換

- ・各学部や事務の取組についての報告
- ・今年度の取組を継続しつつ、次期学習指導要領の改訂を見据え「深い学び」につながる授業づくりをテーマとした研修を進めていく。
- ・他府県において、教員やスクールバス介助員による児童生徒への不適切な関わりの事案があることを踏まえ、来年度も引き続き教職員の状況把握に努め、児童生徒の特性に応じた適切な指導を行っていく必要がある。

